

# 年頭所感



国土交通省 総合政策局長  
石田 優

新年あけましておめでとうございます。  
令和3年という新年を迎え、謹んで新春の御挨拶を申し上げます。  
一般社団法人日本機械土工協会及び会員の皆様方におかれましては、平素より国土交通行政の推進に特段の御理解、御協力を賜り心より御礼申し上げます。

建設産業は、社会インフラの整備や維持管理を通じ、災害から国民の生命と財産を守るとともに、我が国の社会経済活動を支える、大きな役割を担っています。貴協会におかれでは、機械土工に関する調査研究等を行い、その結果を普及することにより、国土の利用、整備、保全と市民生活における環境の向上を図り、もって公益の増進に寄与しておられますことに、改めて感謝申し上げます。

現在、我が国は、昨年からの新型コロナウイルス感染拡大より社会経済や国民生活へ甚大な影響を受けており、国難とも言える状況に直面しております。加えて、全国各地で毎年のように発生している深刻な大規模自然災害や、少子高齢化、人口減少による地方の過疎化など多くの課題に直面しているところです。

建設産業においても、新型コロナウイルス禍を契機とする「新しい生活様式」への対応や、リスクに強い社会経済構造の実現に向けた取組が喫緊の課題となっております。

国土交通省においても、デジタル革命や規制緩和の取組を推進し、日本の活力になげていけるよう全力で取り組んでまいります。

また、インフラ分野では、公共工事の現場で非接触・リモート型の働き方へ転換を図るなど、感染症リスクに対しても強靭な経済構造の構築を加速することが喫緊の課題となっています。このために、DX（デジタル・トランスフォーメーション）を推進し、デジタル技術を活用して、社会资本や公共サービスを変革するとともに、国土交通省の業務そのものやプロセス、働き方の改革を進めることで、インフラへの国民理解を推進し、安全・安心で豊かな生活の実現を目指します。

皆様には、引き続きこうした社会経済の潮流の変化を踏まえつつ、これからも建設産業が我が国の社会経済を支える重要な役割をしっかりと果たしていくよう御尽力をお願いいたします。

さらに、これまで皆様が蓄積された高い技術・技能そして豊かな知識や経験を生かし、建設産業の魅力の向上や後進の指導・育成に力を発揮していただくことを御期待申し上げます。

結びに、一般社団法人日本機械土工協会の今後の御発展と貴協会会員の皆様方のますますの御健勝、御活躍を心より祈念いたしまして、新年の御挨拶といたします。